

〔あ〕

Ⅰ形鋼 (あいがたこう)

Ⅰ形断面をもつ形鋼。フランジ内面に勾配がついているため、軸方向の接合がしにくいことから、単材として柱、梁、母屋(もや)などに用いられる。「Ⅰビーム」ともいう。JIS G 3192。

アーク溶接

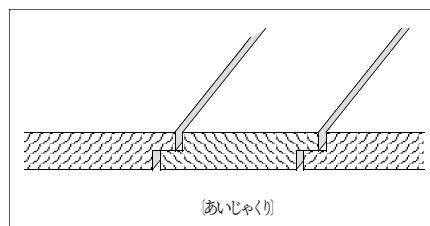
母材と電極または2つの電極間に発生するアークの熱を利用して行う溶接。電極自身が溶けて溶着金属となる消耗式と、別に溶加材を必要とする非消耗式がある。

合口(あいぐち)

→合端 (あいば)

合(相) 決(決)り (あいじゃくり)

板の張り合せ方法の一種。板厚の半分ずつを欠き取り重ね合わせた納まりとすること。壁や天井の板張りの加工に用いられる。乾燥してもすき間が真直ぐに通らないようにする。



合端 (あいば)

①石積みにおいて、隣り合う石と石とが、とば口部分で接触する面。「合口(あいぐち)」ともいう。

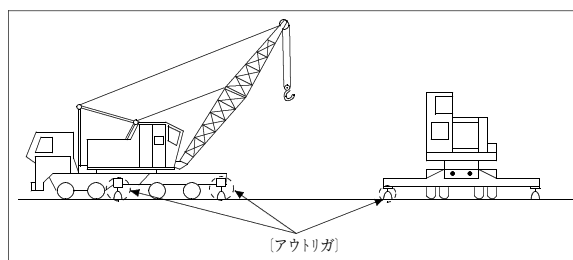
②石張り工事の張り石や庭の飛石において、隣り合う2つの石の相対する小口(こぐち)面。

アイランド工法

地下工事において、周囲地盤を残して根切り底の中央部の基礎や地下室を造った後、これから切梁を取って周囲を根切りする工法。根切り面積が広く、根切り深さがある程度浅い場合に適する。

アウトリガ

トラッククレーンなどで、吊り荷による転倒を防止するため、車体から腕のようにはね出す部分のこと。作業時に油圧または手動で送り出す構造となっている。



上がり框(あがりがまち)

玄関の土間から床への上がり口の縁に設けた化粧の横木。通常は木材が使用されるが、石材や金属製の部材が設けられる場合もある。

空き(あき)

①製作誤差や施工誤差を吸収するため余裕をもたせて設けるすき間。「にげ」ともいう。②部材を繰り返しセットする場合の部材間間隔。

あき重ね継手

鉄筋を適切な長さに確保して重ねて継ぐ場合、ある間隔をあけて継ぐ方式。鉄筋コンクリート構造では、この鉄筋とコンクリートの付着を介して応力が伝達されることから、あき寸法も一定以上に大きくなることを避けなければならない。

灰汁洗い(あくあらい)

木製建具、天井、床、板、柱、造作などの汚れやすすを、か性ソーダの溶液で洗い落とすこと。また乾燥する前に水洗いしてきれいにする作業を含む。

アクセシビリティ

地の利の良さ、利用しやすさ、便利さなど建物の利用のしやすさをいう。身体障害者の建築物への出入りのしやすさなど、建築物内外のバリアフリーの度合いのこと。「接近性」ともいう。特に公共建築物は立地条件として重要。

アクリル樹脂エマルション塗料

合成樹脂エマルション塗料の一つで、アクリル系の液体と顔料を主成分とした塗料。略して「AEP」という。

上げ裏(あげうら)

底(ひさし)や軒あるいは階段などの裏側のことで、見上げると目に入る裏側という意味。軒は「軒裏」、階段は「段裏」という。

上げ落し

両開き窓の片方の扉(召し合せで内側にくる錠の付かない側の扉)を固定する戸締り用の金物。上下それぞれに取り付けるのが一般的で、上枠または床に設けた受座に扉からボルトを差し込んで固定する。「フランス落し」「丸落し」「南京(なんきん)落し」などがある。

上げ越し

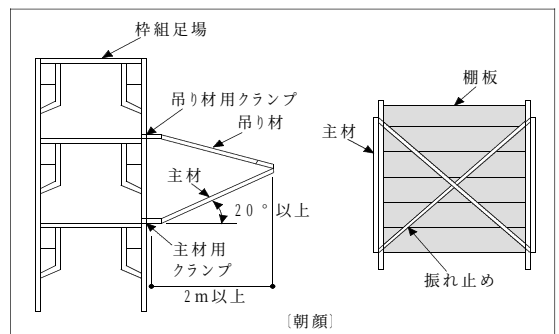
コンクリート型枠の組立てに際し、打設されるコンクリートの重量で型枠自体がたわんだり、下がったりすることを見込んで、あらかじめ支柱を長めに調整して型枠を上げておくこと。このように設計寸法より多少高く寸法をとって、載荷後決まった寸法となるように処理することをいう。

あご付きパラペット

防水上の納まりや漏水対策のために、建物の屋上、吹抜け廊下等に設けた「かぎ」形をした低い壁。

朝顔(あさがお)

養生(ようじょう) 朝顔のこと。高層建築物の工事において、落下物を防ぐ目的で、2階または3階部分の足場から斜めに突き出した板張りの防護棚をいう。

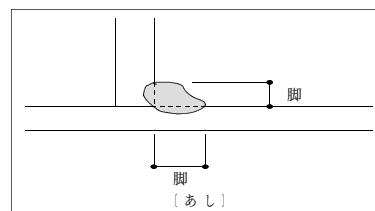


麻心 (あさしん)

ワイヤーロープの中心にある心に繊維を使用したもの。心綱には天然繊維や合成繊維が使用されるが、なかでも黄麻(ジュート)、マニラ麻、サイザル麻が主として使用されるので、繊維心のものを「麻心」という。軟らかいので玉掛け用によく用いられる。

脚(あし)

すみ肉溶接において、母材表面の交点から溶接端部(脚端)までの長さのこと。



足止め

①足場板あるいは歩み板に一定間隔で横位置に取り付ける滑り防止用の細い幅の木材。外部足場の登り栈橋などで用いる。「踏み栈」ともいう。②瓦屋根において、葺き土や瓦がずり落ちないように、野地板に取り付ける細い幅の木材。「足止り」ともいう。

足場

工事に組み立てる仮設の作業床、作業員通路、材料・部品などの支持台の総称。現在は鋼製のものが多く、使用目的によって外部足場、天井足場、鉄筋足場などに分類される。「足代(あじろ)」ともいう。

足場クランプ

鋼管の足場を組み立てる際、交差部分に用いる結合用金物。

アスコン

道路工事の舗装に使用されるアスファルトコンクリートのことで「合材」ともいう。これを製造している工場を「合材工場」という。現在はほぼ100%リサイクルされている。

アスファルト

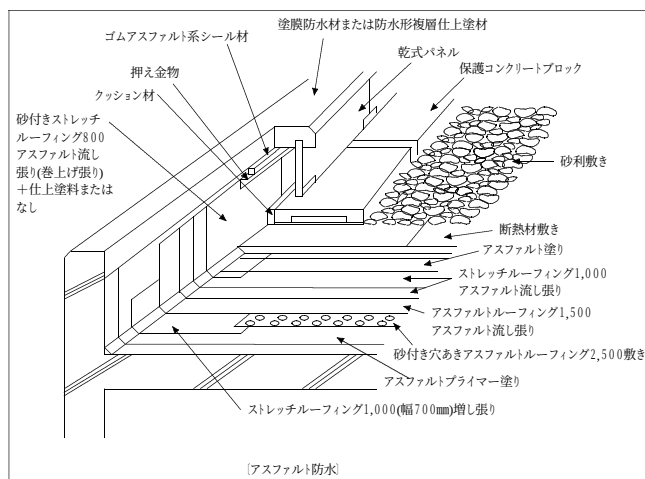
炭化水素を主成分とする暗褐色ないし黒色の、結合性のある固形あるいは半固形の瀝青(れきせい)物質。石油が天然に蒸発して産するものと、石油精製の残滓(ざんし)として生じるものがあり、前者を「天然アスファルト」、後者を「人造もしくは石油アスファルト」と呼ぶ。両者とも種類が非常に多く、道路舗装、防水工事およびアスファルト製品の製造などに用いる。JIS K 2207。

アスファルトプライマー

アスファルトを揮発性溶剤で溶いたもの。アスファルト防水層を下地へ密着させるために塗布する液状の材料で、はり塗りやスプレーガンに適した粘度をもつ。単に「プライマー」と呼ぶこともある。

アスファルト防水

アスファルト、アスファルトフェルト、アスファルトルーフィングなどを3～4層に重ね、防水層を形成する防水工法または工事。



アスファルトモルタル

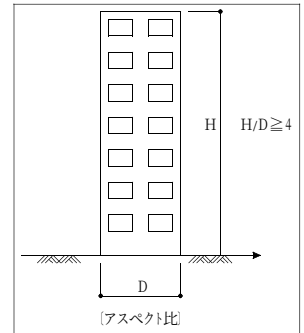
高温のアスファルトに砂と石粉を混合したもの。コンクリート下地などの上に敷均し、転圧して仕上げるもので、床材としての使用が多い。

アスファルトルーフィング

アスファルト防水に使用する防水紙。厚いフェルト状の紙にアスファルトを浸透させ、表面に雲母(うんも)の細粉などを付着させたもの。JIS A 6006、JASS 8。

アスペクト比

建物の幅と高さの比率のこと。柱スパンに対して軒高が4倍(アスペクト比4)を超えると、塔状建物と称して構造計算の条件がより厳しくなる。

**アスベスト**

→石綿(せきめん)

アセチレンガス

カーバイドに水を反応させて発生させるガスで、ガス切断やガス溶接に用いる。略して「アセ」ともいう。

遊び

①接合部などに緩みがある状態のこと。②間隔にゆとりをもたせた状態のこと。→逃げ ③職人が仕事にあぶれること。

当たり

①部材の位置を示す語。例えば釘打ちの際、「柱当たり」「胴縁当たり」などのように用いる。②じゃまな出っ張りのこと。後に続く作業に支障となる突出部分を除去することを「当たりを取る」「当たり取り」などという。③モルタルの仕上げ面の定規になるように、あらかじめ部分的に塗ったモルタル。そのモルタルの位置に合わせて全体の仕上げ面をつくっていく。

圧延鋼材(あつえんこうざい)

H形、I形等の断面をもつ、圧延によって成形された構造用鋼材の総称。常温または高温の鋼塊を回転するロールで成形する。軽量形鋼は冷間加工、I形鋼、H形鋼は高温の熱間加工で成形される。

圧送コンクリート(あっそうコンクリート)

コンクリートポンプによって輸送管を圧送されたコンクリート。圧送を行うものは「コンクリート圧送施工技能士」の資格が必要である。圧送に先立ち富調合のモルタルを圧送して、配管内部の潤滑性を保ち、コンクリートの品質変化を防止する必要がある。

圧着継手(あっちゃくつぎて)

鋼管(スリーブ)内に2本の鉄筋を挿入し、鋼管を圧着加工して鉄筋を接合する工法の総称。スライズジョイント工法、グリップジョイント工法などがある。

圧着張り(あっちゃくばり)

タイルの張り方の一種。あらかじめモルタル木ごて押えで下地をつくり、その上に張付け用モルタルあるいはセメントペーストを塗り、軟らかいうちにタイルを押し付けて張る。

圧入工法(あつにゅうこうほう)

杭やシートパイルなどを油圧や水圧で土中に埋め込む工法。低騒音・低振動で施工ができる。

圧密沈下(あつみつちんか)

盛土や構造物などの荷重の作用によって、土が長い時間をかけて排水しながら体積を減少させる圧密現象により、地盤面が下がる現象をいう。軟弱地盤や透水性の低い粘性土に見られる特有の性質。

当てとろ

石張りにおいて、石の裏面に付ける団子状のモルタル。張り石と下地を部分的に接着する。

後施工アンカー(あとせこうアンカー)

打設されたあとのコンクリートに穴を穿孔(せんこう)し、これを利用して固着されるアンカー。所定の深さまで穴に挿入し、打撃により先端の拡張部が開き、コンクリートにくい込み固着されるメカニカルアンカーと、穿孔された穴に接着剤を充てんし、接着剤の硬化により物理的に固着されるケミカルアンカーとがある。コンクリート打設後の施工であるため、建物改修や補修、位置合せの必要な場合などに多く用いられる。一方、コンクリート内の鉄筋や配管などにより設置位置の制限が生じる。

後付け工法

コンクリートの躯体工事が完了した後に仕上げ部材などを取り付ける工法の総称だが、一般的には同じ部材の「先付け工法」が存在する場合に使われる。

あなあきルーフィング

アスファルト防水層を下地のコンクリートなどに密着させないために使用する穴のあいたルーフィング。下地のひび割れなどの影響を防水層に与えないことを目的として使用する。

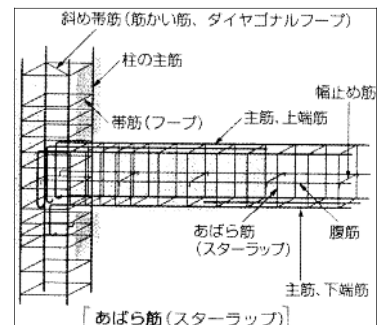
JIS A 6023。

あばた

→ジャンカ

肋筋(あばらきん)

鉄筋コンクリート構造の梁部に、せん断補強のために用いられる。梁主筋に直交して、それを巻くようにして配筋される。一定間隔で配置し、主筋位置を固定する役目も果たす。「スターラップ」ともいう。



雨押え(あまおさえ)

外壁と開口部の上枠の取合い部分などに取り付ける雨水の浸入防止用の板。「水切り板」ともいう。

雨掛り(あまがかり)

屋根のない開放廊下や階段などのように、雨が降ると常時漏れる部分・個所の総称。

網入り板ガラス

割れても破片が崩れ落ちないように、中に金網や金属線をはさみ込んだ板ガラス。防火性に優れる。「ワイヤーガラス」また単に「網入りガラス」ともいう。JIS R 3204。

洗い出し

壁・床仕上げの一種。種石(たねいし)とセメントを混練して下地モルタル面に塗り付けた後、硬化直前に表面を噴霧器で水洗いして種石を露出させたもの。

改め口(あらためくち)

天井裏、床下、パイプスペースなどの内部を点検するための開口あるいは扉。天井や床に設ける場合は目立たないように、それぞれの仕上材と同材のふたを設けることが多い。

蟻(あり)

扇型の凹凸を組み合わせた木材の継手のこと。

アルカリ骨材反応(アルカリこつざいはんのう)

コンクリートの細孔溶液中の水酸化アルカリと骨材中のシリカ鉱物とが化学反応を起こし、コンクリートに膨張ひび割れやポップアウトを生じさせる現象。

アルマイト

アルミニウム表面に耐食性に富んだ被膜処理を施したもの。アルミニウムを陽極とした電気分解により表面に酸化皮膜をつくる。

合せガラス

2枚の板ガラスの間に透明なプラスチックの薄膜をはさみ、密着させたもので、割れてもガラスが飛散せず、物が貫通しにくい性質をもつ安全なガラス。防弾ガラスはこれを多層に組み合わせたもの。JASS 17。

アンカー

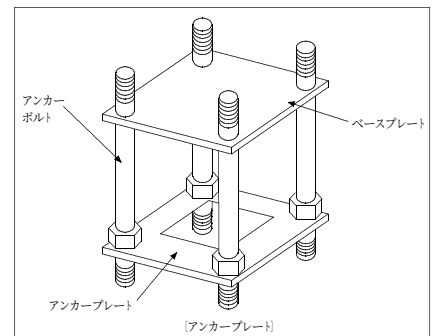
コンクリート中の鉄筋や鋼材が移動したり引き抜けたりしないように、必要な長さをコンクリートに埋め込んで固定すること。またその必要長さのこと。「定着」ともいう。

アンカースクリュー

石やコンクリート面にボルトやビスを取り付けるための筒型の受け金物。ドリルであけた穴に差し込まれた金物が、中で開いて引抜きに抵抗する仕組みをもつ。

アンカープレート

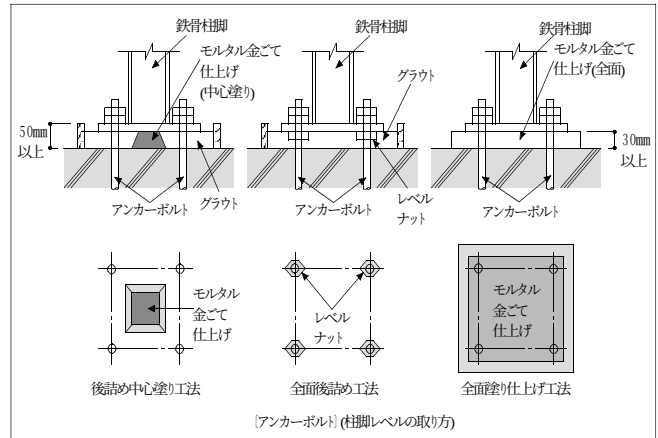
鉄骨工事でアンカーボルトに取り付けて用いる鋼製のプレート。鉄骨の柱脚部においてベースプレートを締め付けるアンカーボルトがコンクリートから引き抜けるのを防ぐことや、アンカーボルトを固定するために用いる。アングルなどで組んだものは「アンカーフレーム」ともいう。



アンカーフレーム
→アンカープレート

アンカーボルト

建築物の構造躯体を基礎に緊結する接合金物(ボルト)のこと。木構造や鉄骨構造では、基礎部分にアンカーボルトが埋め込まれていて、そのアンカーボルトを土台または構造躯体の底部に貫通させてナットで締め固められる。



アングル

鋼材の一種で、L形の断面形状を有する山形鋼のこと。板幅の等しい等辺山形鋼とそれが異なる不等辺山形鋼の2種がある。JIS G 3192。

鯰鯀(あんこう)

軒樋(のきどい)の雨水を集める枥(ます)。ここから豎樋とつながる。角形や丸形のものがあり、通常下部が漏斗状にややつぼまっている。「呼び樋」ともいう。

安全委員会

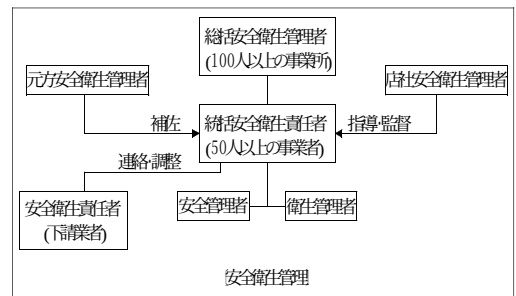
労働者の危険防止など安全にかかわる事項を審議するために、法で定める業種および規模の事業所ごとに設ける委員会で、月1回以上開催しなければならない。建設業などについては、自社の労働者を常時50人以上使用する事業所について設置が義務づけられている。労働安全衛生法第17条、同施行令第8条。

安全衛生委員会

労働者の安全および衛生にかかわる事項を審議する、安全委員会と衛生委員会の両者の機能を持つ委員会。法に基づき安全委員会と衛生委員会をともに設置しなければならない場合、それに代えて設置できる。委員の構成、開催回数についてはいずれの委員会も同じである。労働安全衛生法第19条。

安全衛生管理

労働安全衛生法・同施行令および同規則に基づいて、労働災害を防止し、労働者の安全の確保および健康の維持をはかるとともに、快適な作業環境をつくること。建設業者は本・支店に安全衛生管理部署を設置し現場のパトロール・指導を行うとともに、現場でも安全衛生管理の組織体制を整え、現場内の管理を行っている。単に「安全管理」ともいう。



安全衛生協議会

特定元方事業者(元請)が複数の下請工事の混在作業によって生じる労働災害を防止するために設置・運営する協議組織。関係下請業者と元請が協力して定期的に開催し、安全計画・安全目標の決定、安全パトロールなど防災対策の具体策の決定、安全作業のための連絡等を行う。労働安全衛生法第30条、同規則第635条。

安全管理

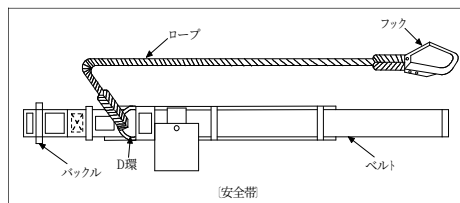
→安全衛生管理

安全管理者

労働安全衛生法において常時50人以上の作業員が働く事業場に選任が義務づけられている安全管理の責任者。関係法令で資格要件や職務内容が定められている。

安全帯

高所作業や転落などの危険防止のため着用する保護用のベルト。厚生労働省告示により規格が定められている。「命綱(いのちづな)」ともいう。



安息角(あんそくかく)

砂、礫(れき)等の粘着力のない土を締め固めずに盛り上げた場合に、その斜面が崩れないときの最大角度のこと。

アンダーカット

溶着金属の止端(したん)に沿って母材が溶けて掘られ、溝となった溶接欠陥の一種。母材断面の減少やスラグまき込みを招く。

アンダーレイ

壁、床などの下張りの総称。主としてカーペットの下張りのことをいう。

安定液

現場打ちコンクリート杭工事、山留め工事に際して、掘削孔が崩れないように、安定させるために用いるベントナイト液などのこと。

〔い〕

異形鉄筋(いけいてっきん)

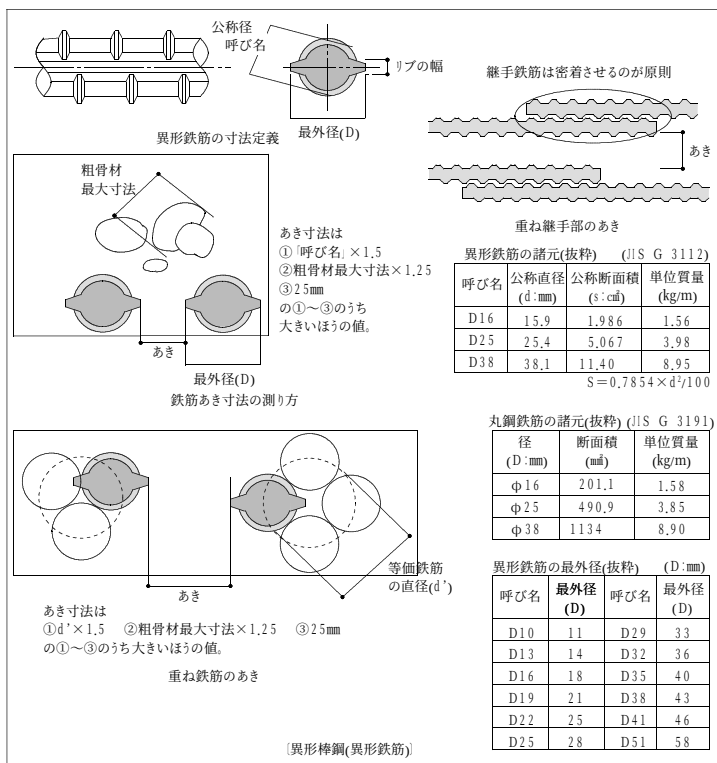
→異形棒鋼(いけいぼうこう)

異形棒鋼(いけいぼうこう)

コンクリートとの付着強度を高める目的で、表面にリブや節などの突起を付けた鉄筋の総称。一般には「異形鉄筋」と呼ばれている。

維持管理

広義には建築物などの資産価値を保ち、経営的に運用することを行い、狭義には修繕を含めた建物の清掃・保守点検・手入れなどのことをいう。



石目(いしめ)

自然石における鉱物の配列によって生じた割れやすい面のこと、石の加工に利用されている。

石綿(いしわた)

→石綿 (せきめん)

板目

原木を年輪の接線方向に挽いたとき、その面に現れる山形や波形の木目のこと。幅広の材料が取りやすく、製材の効率も良いので、板などの一般の木材は、ほとんど板目である。板目に取りられた材料は、柾目(まさめ)のものと比べると、幅反りなど狂いを生じやすい。

一三六(いちさんろく)

コンクリートの容積配合比のことで、セメント1、砂3、砂利6の割合で混練すること。ほかに、一二四(いちにし)あるいは、二四八(にいしいはち)などがある。

一次下請(いちじしたうけ)

元請(もとうけ) 業者と直接下請負契約を結ぶこと。あるいはその契約を結んだ下請負人。

一次白華(いちじはっか)

コンクリート、タイル、れんが、天然石などの表面やモルタル目地に内在する水酸化カルシウムが材料中の水に溶け出して、不溶解性の炭酸カルシウムに変化することによって生じた白い物質。なお白華は「エフロレッセンス」ともいう。

井筒工法(いづつこうほう)

鉄筋コンクリートでつくった筒状の構造物を内部を掘削しながら地中に沈め、それを建物の基礎とする工法。おもに軟弱地盤における地下の深い構造物に採用される。ケーソン工法の一つ。

一般建設業許可

建設業法による許可区分の一つで、請け負う工事を直営で施工しようとする者が受ける許可。なお下請を使って施工しようとする者であっても、下請金額が建設業法施行令で定める額の範囲内であれば、当該許可でたりる。

一本足場

建地(たてじ)が1列だけの足場で、歩み板がなく、作業床としては適さない。布地を2本合せにした「抱き足場」も一本足場の一種。「一側(ひとがわ)足場」ともいう。

移動型枠工法 (いどうかたわくこうほう)

連続シャレンの屋根スラブ、ドームおよびトンネルなどで用いられる移動式の型枠工法。形状が複雑な型枠を繰り返して使用する場合、台車などを利用して横移動させ、再び持ち上げて使用するため、組立て・解体などで省力化を図ることができる。「トラベリングフォーム工法」ともいう。

移動式足場

→ローリングタワー

移動式クレーン

揚重装置(クレーン)積載型のトラッククレーン、クローラクレーン、ラフテレーンクレーン等のように、自走が可能な揚重機械(クレーン)の総称。工場等の平面形状の大きい、比較的low層の建築物の施工に用いられる。

糸間(いとけん)

→糸尺(いとじゃく)

糸尺(いとじゃく)

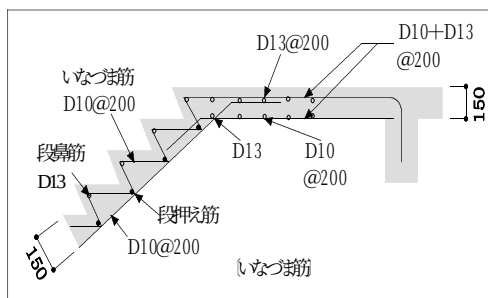
表面に凹凸がある場合、その凹凸に沿って糸で測った長さ(単位:尺)。塗装工事や左官工事などの塗面積の算定の際に用いるほか、複雑な断面形状の笠木における断面の外周長を求める場合にも用いられる。長いところを測る場合には、「糸間(いとけん)」ともいう。

糸幅

糸尺(いとじゃく)で測った寸法。

稲妻筋(いなづまきん)

鉄筋コンクリート造の階段の配筋で、踏面(ふみづら)および蹴上げ部分に沿って山形を連続させ、段状にした鉄筋。



稲妻釘(いなづまぐぎ)

床の間の軸を掛ける金物などに使う、頭を二重に折り曲げた釘。直接打ち付ける「稲妻折釘」と左右に移動する「稲妻走り釘」がある。

犬走り(いぬばしり)

①建物の周囲および軒下部分にコンクリートや砂利などで固めてつくる細長の土間。②堤防工事や盛土の際、法尻(のりじり)と側溝の間に設ける狭幅な平坦な部分のこと。

入隅(いりすみ)

2つの面が交差するとき内側にへこんだ隅角部のこと。

入幅木(いりはばき)

壁面よりも内側となるように納められた幅木。

いわし

→キンク

インサート

コンクリートにボルトなどをねじ込むため、あらかじめ型枠に仮止めて、内部におねじが切ってある鋼製の部品。

